



ハーブ通信

2007年

11月号

(第18号)

<http://www.hurp.info>

憲法60年の軌跡を映像で検証！

第4回平和ドキュメンタリー映画上映会

2007年10月17日

上映作品：

「安保条約」

(1959年、総評安保映画製作委員会、20分)

学習アニメーション「日本国憲法」

(1989年、平田敏夫、15分)

「日本の憲法」

(1965年、菅家陳彦、30分)

10月17日(水)、第4回平和ドキュメンタリー映画上映会がもようされました。

映画「安保条約」は、1959年に、当時の労働組合のナショナルセンターだった総評が製作したものです。

タイトルにもなっている「安保条約」とは、1951年(昭和26年)9月8日に日本と連合国との間で結ばれた平和条約と同時に吉田茂首相が署名した「日本国とアメリカ合衆国との間の安全保障条約」を指し、この条約によって、アメリカ軍は在日米軍となって、占領から解かれた後もそれまで通り日本に駐留する事が可能となりました。映像は、その条約に署名した吉田茂首相の顔写真で始まります。

そして1950年代の後半、安保条約を改定しようという動きに反対する国民の運動が高まります。この改定が日本を再び戦争に巻き込むものだと感じて、行動に移したのでした。

国会を取り巻いてのデモ行進の圧倒的なエネルギーは、迫力がありませんでした。

参加してくださった年配の方からは、「時代を感じさせる作品。当時の自分は、元気な人

たちについていって運動に参加した記憶がある。詳しいことはわからなかったが、正しいことだということは感じていた。ひとりひとりが、生活の中で大人になるのが民主主義だと思う」と、当時の人々の政治への関心の高さが語られました。

また、学生の方は、「過去から学ぼうとしている人が少ない。政治に詳しい人はいるが、生活と結びついていないのではないか」という発言もありました。

また、作品中の「高い不安は軍事拡張の口実となる」

「科学は戦争のためにあるのではない」

「無気力や無関心が権力に味方する」

といった言葉には、今にも通じるものがあると感じました。50年越しに私たちに忠告をしているようにも感じられました。

無気力や無関心が権力に味方するのであれば、たえず関心を持って権力をチェックすることが私たちにできるはじめの一歩なのではないかと思いました。

次の作品の合間に、学習アニメーション「日本国憲法」が上映されました。

公園で遊ぶ子ども達が、陣地をめぐるケンカになりそうになるところを、一人の老人が「この広場はだれの物でもない、争ってはいけない」と言って諭します。そこから、明治憲法と日本国憲法を比較しながら子どもにもわかりやすく(見ている私たちにもわかりやすく)今の憲法の大切さを説いていきます。

「戦争って、カッコイイじゃん」という子どものストレートな言葉に、「戦争と関係ない

人が死んでいくのが果たしてよいことかな」とかえすおじいさんが印象的でした。子どもに同じようなことを言われたら、自分はどうか答えられるのか、少し心配になりました。

「日本の憲法」は、1950～60年代に起きた憲法改正の動きとそれに反対する人々の模様を映し出しています。

なぜ若い命を戦争で失わなければならなかったのか。憲法は、その反省から前文で恒久の平和を求め、第9条で戦争の放棄を定めました。

大学の教授、京都知事、キリスト教の牧師、清水寺の和尚さんらが会社や工場や民家で憲法の大切さを語ります。「憲法ができたときは本当に喜んだ」とにこやかに語る教授の表情

は、聞く人の心を惹きつけたことでしょうか。京都知事は「憲法は公務員が守るもの」と、憲法が権力を抑えるためにあることを訴えます。

こうした地道な活動が、現在まで続いて、人々に「憲法を守り伝える」気持ちを育ませてきたのではないのでしょうか。上映終了後の参加者の方の「今の国民もすてたものじゃないかもしれない」という感想にも、それが表れていると思いました。

(T本)

news; 平和ドキュメンタリー映画上映会2008 のおしらせ

7月から毎月 HuRP が催している「平和ドキュメンタリー映画上映会」も今月24日で第5回を教えることになりました。始めは全5回の予定でしたが、いろいろな作品を見ていくうちに、もっとたくさんの人に見てもらいたい、そして私たちももっとたくさんの作品を観たいと思うようになり、来年も続けて開催することが決まりました！

さらにバラエティに富んだ作品を選んで上映していきたいと思います。

また、HuRP が手がけている「白鳥事件映像」のパイロット版も公開する予定です。

詳しい情報は随時この通信やHPで紹介していきますので、チェックしてぜひ見に来てください！

日程(予定)

2月14日(木) 19時～

3月(未定)

4月26日(土) 19時～

5月17日(土) 19時～

上映作品のラインナップ(予定)

- ・映画『真昼の暗黒』
(1956年、今井 正監督)
- ・現代の映像でみるえん罪事件
- ・「白鳥事件」映像プロジェクト・パイロット版

このほか、バラエティに富んだ作品を上映する予定です！



人々からすべてをうばう「戦争」。
平和を願う人々の表現から、
戦争が人々から何をうばい、何を残すのか
を感じてみませんか。

日程：12月15日（土）

場所：埼玉平和資料館からスタート

スケジュール：

～ 11:00 集合（東松山駅）
11:20～ 埼玉平和資料館
（テーマ展「戦時埼玉の食卓」を展示中）
13:00～ 食事・移動
14:30～ 丸木美術館「原爆の図」鑑賞
（学芸員さんの解説があります・付き企画展「日
本の報道写真家たち／世界の戦場から」を展示中）
16:30～ 出発
17:00～ 解散（東松山駅）

入場料：埼玉県平和資料館 100 円・丸木美術館
735 円



埼玉県平和資料館外観



丸木美術館外観



丸木位里・俊氏 プロフィール（HPより）

丸木位里 氏

1901 年、広島の大田川のほとりの農家の長男として生まれる。

田中頼璋、後に川端龍子らから日本画を学ぶ。
青龍展などに意欲的に出品を続けながら水墨画に
抽象的表現を持ち込み、独自の画風を打ち立てる。
戦争前後は戦争に批判的なグループ、美術文化協
会、前衛美術会などで日本画の旗手として活躍す
る。

戦後は現代日本美術展、日本国際美術展などに雄
大で繊細な水墨画の発表を続け、从展に毎年、俊
との共同制作を出品。

1995 年 10 月 19 日午前 11 時 15 分自宅にて、94
歳の生涯を終える。

丸木 俊 氏

1912 年、北海道雨龍郡の寺の長女、赤松俊として
生まれる。

女子美術専門学校で洋画を学び、二科展に出品す
る。

戦前はモスクワ、ミクロネシアに長期滞在し、ス
ケッチ多数を描く。

1941 年に位里と結婚し、美術文化展、前衛美術展、
さらに女流画家協会展に精力的に出品を続ける。
数多くの絵本を手がけ、「日本の伝説」でゴール
デンアプル賞、「おしらさま」「つつじのむすめ」
「ひろしまのピカ」など民話、創作、記録のあら
ゆる分野の絵本で数々の賞を受ける。

2000 年 1 月 13 日、敗血症による多臓器不全のため永眠。87 歳。

私たち HuRP は毎月一回、平和ドキュメンタリー映画の上映会を開催しています。

平和憲法施行 60 年間を記録映像によって検証していきたいと思えます。今回で5回目をむかえ、ひとつの区切りとなります。なかなか観ることができない映画ばかりですので、お誘いあわせのうえ、ぜひご来場ください。

日時：

2007 年 11 月 24 日(土) 15:00 ~ 17:00

会場：伊藤塾東京校 5号館

(渋谷駅徒歩3分)

会費：500 円 (HuRP 会員・学生・伊藤塾塾生は 300 円)

上映作品：

「日本の中のベトナム戦争」
(1967 年、20 分)

「われわれは監視する
— 核基地横須賀」

(1975 年、荒井英郎監督、48 分)

在日米軍の核装備を監視し続け製作されたこの作品は、ライプチヒ(東ドイツ)の国際記録・短編映画祭で金鳩賞を受賞した作品です。

お問い合わせ：HuRP のホームページ

<http://www.hurp.info/index.html>

カラダに平和を 自炊のススメ

18 だいにんカレー

最近、急に寒くなってきました。会社の人と昼ご飯を食べているときに、カレーに入れる具の話になり、「大根を入れるとおいしいよ」と聞きました。大根は冬に煮物、汁物と大活躍しますが、カレーに入れたことは一度もありませんでした。とても興味をわいてきて、実際に作ってみました。

材料：鳥肉、大根、にんじん、タマネギ、固形のカレールー

手順：1 鳥肉、にんじん、タマネギを一口大に、大根はやや大ぶりに切る。

2 鳥肉、タマネギを油で炒め、焦げ目ができたら大根、にんじん、水を入れる。

3 大根、にんじんに箸が通るようになったら、固形のカレールーを入れる。

4 とろ火で煮込んで完成。

想像していたよりカレーと大根が合っていて、とてもおいしかったです。ジャガイモより準備が簡単ですし、あっさり食べたいときにいい感じですよ！



本当においしかったです！

ぜひ試してみてください！

お知らせにありますように、12月に埼玉の丸木美術館に行くことが決まりました。『原爆の図』の実物を見られるのがとても楽しみです。当日来られる方は、是非ご連絡ください！

(右の写真は、先日お伝えした北上で撮ったものです・T本)

